

COVID ワクチン後の抗体価測定によって得た知見

◎関口 芳恵¹⁾、鈴木 悟¹⁾、栗又 真奈美¹⁾、飯田 恵子¹⁾
総合病院土浦協同病院¹⁾

【はじめに】当院は、三次救急を行う地域基幹病院である。今回、COVID ワクチン（ファイザー社 2 回接種）後に行った職員健診にて接種時期・測定時期の異なる COVID 抗体価のデータを収集することが出来たので報告する。

【方法】COVID ワクチンは 2021 年 3 月より順次開始し 2021 年 6 月にほとんどの職員の接種が終了した。コロナ禍による不安もあり、抗体価を測定することを希望する声も聞かれたため、2021 年 6 月より開始する職員健診時に希望者対象に COVID 抗体価を測定することとした。抗体価測定は、Abbott 社のアーキテクト SARS-CoV-2IgG II Quant を使用した。COVID 抗体価の測定を希望した対象職員は 669 名で、接種後の発熱・痛みなどをアンケートで回収し、併せて確認することとした。

【結果】年齢や性別による差異も認められたが、それ以上に、接種日から日数が経つにつれ抗体価の減少が顕著であった。日数に遜色なくとも、かなり低値を示した例もあった。抗体獲得に個人差が大きいことが伺えた。ワクチン後の副作用の状況はアンケートの回答から 1 回目よりも 2 回

目が重く、発熱も 2 回目接種後に多く見られた。

【まとめ】ワクチン接種後の COVID 抗体価の減少が明らかになり、ブレイクスルー感染も見受けられ、3 回目のワクチン接種も決定した。今後 COVID がどういった形で、残っていくのか未だ想像が出来ない状況にある。ワクチンは継続接種を続けるのか、ワクチン効果で他の感染症同様共存していくのか、感染対策の手をどこまで緩められるのか、今後注視していきたい。（土浦協同病院臨床検査部 029-830-3711 内線 2562）